

## 「日本デー2022」（ドイツ・デュッセルドルフ）出展レポート

イベント名	日本デー デュッセルドルフ/NRW (Japan-Tag Düsseldorf/NRW)
日時	2022年5月21日(土)
場所	ドイツ・デュッセルドルフ市 ライン川岸
主催者	・デュッセルドルフ/NRW 日本デー協会 (デュッセルドルフ日本商工会議所、デュッセルドルフ日本クラブ) ・ノルトライン・ヴェストファーレン州経済・イノベーション・デジタル化・エネルギー省 ・ノルトライン・ヴェストファーレン州経済振興公社 ・デュッセルドルフ市
参加者数	約60万人(主催者発表)
ホームページ	<a href="http://www.japantag-duesseldorf-nrw.de/">http://www.japantag-duesseldorf-nrw.de/</a>

### 1 イベント概要

#### ★デュッセルドルフ市

デュッセルドルフ市はドイツの北西部ノルトライン＝ヴェストファーレン州(NRW州)の州都で、人口約60万人の西ドイツを代表する都市です。NRWには600を超える日本企業が進出しており(ドイツ国内でも最大規模)、欧州屈指の日本人コミュニティがある街としても知られています。

#### ★日本デーとは

日本デーはドイツ・デュッセルドルフ市のライン川沿いを会場に、日本文化を紹介する場として2002年から始まりました。コロナ禍のため過去2年間にわたって中止とされましたが、3年ぶりの開催となる今回、日本文化に直接に触れることを心待ちにしていた多数の来場者があり、和装やアニメ等のキャラクターの衣装に身を包んだ来場者も数多く訪れ、会場は大いに盛り上がりました。会場内の複数箇所に設けられたステージでは、和太鼓や琴の演奏、柔道、剣道、居合道などの演武、コスプレファッションショーやカラオケ大会などが行われたほか、生け花、着物の着付け、日本語教室など様々な体験ができるブースが設けられました。なお、今回は、デュッセルドルフ市やノルトライン・ヴェストファーレン州と交流のある千葉県、福島県も出展していました。そして夜23時頃からは、日本から招かれた花火師による大規模な花火大会も行われ、花火が打ち上がるたびに大きな歓声が上がっていました。来場者には一日を通して日本文化を満喫する機会になったことと思われま

また、日本デーの開催に合わせ、日独の経済シンポジウムや、博物館における日本関連

の展示会など、多くの関連行事も開催されます。強い集客力を持つデュッセルドルフ市の春の一大イベントとして現地に受け入れられています。



### ★日本デーの来場者

日本のポップカルチャーに関心を持つ若者、訪日旅行を計画中の家族連れ、日本の伝統文化に興味があるお年寄りなど幅広い層のお客さんが、会場のライン川沿いの遊歩道やブルク広場を埋め尽くすほど来場します。来場者の大多数は日本文化に興味を持った方々です。イベント開始時間は正式には12時からですが、10時頃にはすでにたくさんの方が会場付近を散策していました。

## 2. 当事務所ブース

### ★出展内容

当事務所のブースでは次のような活動を展開しました。このうち、(3)～(6)については、今年から実施したものです。

#### (1) 各自治体提供のパンフレットの配布、ポスターの展示による日本各地域のPR

→日本デーの来場者は紙媒体資料（パンフレットやポスター）を好まれる方が多く、机の上にパンフレットを並べると、ブース開設後すぐに来場者が訪れてパンフレットを手にとられ、終了予定時刻より早くパンフレットは無くなりました。

→日本の観光地のポスターに関心を持たれる方も多く、ポスターの写真を撮っていく方や、ポスターを譲ってほしいの声も度々ありました。（「ポスターを売ってほしい」と

いう声までありました。)特に、“伝統的な日本”をイメージさせるようなデザインのポスター(着物を着て和傘を持った女性が写ったポスターなど)や、“アニメ・漫画”をモチーフにしたようなポスターが人気でした。

→大多数の方は英語のパンフレットでも手に取られますが、比較的年配の方はドイツ語のパンフレットを希望されました。やはりドイツ語パンフレットの人気には及ばないため、特にドイツでのPRを考えている自治体はドイツ語パンフレットを作成することをおすすめします。

→クレアロンドン事務所のスタッフ1名は、当日浴衣を着てブースに立ちましたが、その浴衣姿のスタッフと記念写真を撮りたいという方もおられました。日本の伝統的な衣服に関心を持たれておられる方も少なからずおられます。



## (2) ノベルティの配布

→ポストカード、ボールペン、メモ帳、缶バッジ、郷土玩具キーホルダーなど、どのような形態のノベルティグッズであっても非常に人気で、瞬く間に無くなりました。

→環境意識の高さから、パンフレットやノベルティグッズを入れるためのプラスチックバッグを勧めても、受け取られない方が少なからずおられました。欧州では、小売店で買い物をした際にも、プラスチックバッグではなく紙袋で渡されることが多くなってきていますので、自治体が制作する(ノベルティグッズとしての)袋は、再生紙の紙袋で作られることが望まれるかもしれません。

## (3) タブレット端末も利用して、自治体の観光PR動画の放映や来場者からの質問に対する情報提供を実施

→自治体から応募があった観光PR動画を活用し、日本の美しい風景や食べ物の映像を音楽とともに放映して、日本の地方の観光地のイメージをお伝えするとともに、ブースの雰囲気づくりに努めました。また、来場者からの各種質問に対して、タブレットを利用した情報提供を行いました。(タブレットに、あらかじめJNTOサイト、ジャパンレールパス、桜前線など、よくある質問に関連したWebサイトへのショートカットアイコンをあらかじめ用意。)



(4) 都道府県の英語版の観光サイト及び SNS についての QR コード表を制作して PR

→ クレアロンドン事務所としては、今回のようなイベントで日本の各地方の情報・魅力に触れていただくだけでなく、イベント終了後も引き続き日本の地方に興味・関心を持っていただき、各地方の情報との接点を絶やさないようにしていただきたいと考えました。各自治体におかれては、英語版の観光サイトや SNS 等において、日々様々な情報を発信されておられますので、各自治体の最新かつ魅力的な情報をイベント当日以降も来場者に継続的に閲覧していただくことを目的として、都道府県の英語版の観光サイト、Instagram、Facebook、Youtube アカウントの QR コード表を制作し、できるだけ多くの来場者に閲覧・フォローしていただくよう情報提供に努めました。

→ 来場者の中には、この QR コード表自体を気に入っていただき、この表を譲ってほしいという方や、「この表はどこのサイトでダウンロードできるのか」と尋ねる方もおられました。

→ 前述のとおり、パンフレットは大変人気で終了予定時刻より早くパンフレットは無くなりましたが、それ以降も、この QR コード表を活用して PR を行いました。



(5) 来場者の名前を書く書道パフォーマンス

→ (本年4月のアイルランドでのイベント「Experience Japan」に引き続き、) 来場者のお名前を、漢字の当て字で書いて差し上げる書道パフォーマンスが大変好評で、ブース前には多くの親子連れ等の行列ができていました。



(6) Instagram「@localeyesjapan」の PR

→ 日本の地域への関心や認知度の向上、観光誘客の促進を図る目的で、クリアロンドン事務所の Instagram アカウント「@localeyesjapan」において、自治体から寄せられた画像等を元に、ガイドブックでは知ることのできない、ローカルな情報を英語で情報発信しておりますが、今回のイベントではそのフォロワー獲得にも努め、ひいては、日本の各地方の魅力に今後とも触れ続けていただくよう PR を行いました。

### ★来場者の関心事、問い合わせ事項

- ・日本の入国規制・コロナの状況について多く聞かれました。(観光の場合、ビザ無しで入国できるか? マスク着用義務等の街中でのコロナ規制はどういう状況か? など)
- ・観光情報としては、「東京・大阪・京都は既に訪れたことがあるので、そのほかの地域でおすすめの場所はあるか?」といったような、大都市よりも地方の自然豊かな場所を求めている人も多くおられました。また、「日本人の、礼儀を重んじて他人に対して丁寧に接する姿勢・考え方を学びたい」「和食が好きであり健康にもいいため、ぜひ日本に食べに行きたい」という声もありました。
- ・また、観光情報以外では、JET プログラムに対するお問い合わせ(応募資格、応募の流れなど)や、日本企業でのインターン受入に関する情報について探している若い方もおられました。半年後にご子息が日本へ留学予定という親御さんは、日本での銀行口座の開設方法について尋ねてこられるなど、日本に関する多種多様な問い合わせがあり、クリアブースはさながらよろず相談所のような状況でした。
- ・また、来場者の中に、ウクライナ人の方も一定数おられたのが印象的でした。避難民の親子で、現在ドイツに住んでいる方は、ドイツで日本語教室と柔道教室を探しているとおっしゃっていました。

以上